

# 地元金融機関調査資料

2018年2月

調査レポート名  
百五経済研究所  
「地域経済レポート」  
2018年1月

概要（一部抜粋）

【三重県経済の動向】

〈現在の景気〉  
緩やかに回復している。個人消費は一部に弱い動きがみられるものの、持ち直しており、生産は回復、雇用は高水準で推移。

〈当面の見通し〉  
緩やかな回復が続く。生産の回復、設備投資のさらなる持ち直しが期待されるなか、雇用は高水準を維持し、所得環境の改善が期待される。

項目	動向	コメント
個人消費	一部で弱い動きがみられるものの持ち直している	家電大型専門店販売額は4.3%増で2か月ぶりの増加。ドラッグストア販売額は11.1%増で32か月連続の増加。
住宅建築	足踏み	貸家（+28.1%）と分譲（+18.6%）が2か月ぶりの増加。
設備投資	持ち直し	11月の建築物着工床面積（非居住用）は、前年比6.4倍（+538.9%）で3か月ぶりの増加
公共工事	横ばい	12月の公共工事請負件数は前年比13.8%増で3か月連続の増加。
輸出入	上向く兆し	主要港である四日市港は6.8%減で3か月ぶりの減少。
生産活動	回復	、電子部品・デバイス工業、金属製品工業、輸送機械工業などが上昇
雇用情勢	高水準続く	11月の有効求人倍率（季調済）は1.69倍で、前月比0.01ポイント上昇

三重銀総研  
「調査レポート」  
No. 91  
2018年1月

「中部地方におけるモノづくり強化に向けて ～生産性向上の視点からのアプローチ」より

図表3 製造業の労働生産性の推移

(資料)経済産業省「工業統計調査」を基に三重銀総研作成  
(注)2010年までは5年ごと、2011年以降は毎年の数値。

図表14 自社の活動へのSDGsの取り入れ状況

(資料)日本経済団体連合会・1%クラブ「2018年度社会貢献活動実績調査結果」  
(2017.11.14)を基に三重銀総研作成

三重県信用金庫協会  
「三重県しんきんレポート」  
vol. 19  
2018年1月

● **雇用(ヒト)**  
人手不足判断DIは▲50・5(マイナスは人手不足)超え、前期比▲6・0ポイントで3期連続上昇し、人手不足感は過去15年間の調査の中で2期連続最高を更新するなど、人手不足が深刻化している。

● **設備投資(モノ)**  
設備投資実施企業割合は35・2%と、前期比2・5ポイントの改善となった。

● **資金繰り(カネ)**  
資金繰り判断DIは▲4・0と、前期比3・3ポイントの改善となった。

**北部 北勢・伊賀の業況**

業況は1年半ぶりに悪化に転ずるも6期連続プラス基調を維持。来期は悪化の見通し

● **直近の業況**  
2017年10月～12月期の三重県北部の業況判断DI(実績)は5・4と、前期比▲11・7ポイントの悪化となった。業種別では、卸売業で改善し、建設業、不動産業、製造業、サービス業、小売業で悪化となった。

● **来期の見通し**  
2018年1月～3月期の三重県北部の業況判断DI(予想)は0で、当期比▲5・4ポイント悪化の予想である。業種別では、卸売業、製造業で改善し、不動産業で横ばい、小売業、建設業、サービス業で悪化の予想である。